島根大学考古学研究室調査報告第 17 冊

島根県松江市大草町

古天神古墳の研究

2018

島根大学法文学部考古学研究室
古天神古墳研究会

古天神古墳研究会

島根県松江市大草町

古天神古墳の研究

2018

島根大学法文学部考古学研究室
古天神古墳研究会

例　言

1．本書は、島根県松江市大草町杉谷1169番地に所在する古天神古墳（県指定史跡）から、1915（大正４）年に出土した遺物を対象とした資料報告、ならびにそれを基礎とした研究報告をおもな内容とする。古天神古墳の出土遺物は現在、東京国立博物館の所蔵となっている資料が主体をなす。このほか、島根大学法文学部考古学研究室の所蔵資料、地元の研究者らによる採集資料が少数あり、本書ではそれらを含めて資料報告の対象とした。

2．出土品の調査は、岩本崇（島根大学法文学部）、大谷晃二（島根県立松江北高等学校）、古谷毅（京都国立博物館〔調査時：東京国立博物館〕）、河野正訓（東京国立博物館）、土屋隆史（宮内庁書陵部）、磯貝龍志（岐阜県教育委員会〔調査時：島根大学大学院生〕）、岩本真実（島根県古代文化センター〔調査時：島根県教育庁埋蔵文化財調査センター〕）、土井翔平（明治大学大学院生）、北澤宏明（國學院大學大学院生）、井上由美子（立正大学卒業生）からなる古天神古墳研究会が実施した。調査にあたっては、出土品の所蔵機関である東京国立博物館に全面的なご協力をいただいた。篤く御礼申し上げる。

3．島根大学法文学部考古学研究室が所蔵する鉄製品については、島根県教育庁埋蔵文化財調査センターにおいてＸ線ラジオグラフィ、九州歴史資料館においてＸ線CTスキャナーによる撮影を実施していただいた。そのご高配にたいし、ここに記して謝意を申し述べる。

4．既掘考古資料としての古天神古墳の再検討に関連して、その学術的知見をより意義の大きなものとするため、出土品の資料化に加えて後方部埋葬施設を対象とした現状記録調査を実施した。調査内容は横穴式石室の再実測ならびに写真撮影である。写真撮影に際しては、画像処理による三次元形状復元技術に資するためのデータを得るように努めた。調査の実施にあたっては、島根県教育庁文化財課から格別のご配慮を賜った。また、基準点の座標値については、島根県教育庁埋蔵文化財調査センターから情報を提供いただいた。三次元モデルの作成にあたっては、大手前大学史学研究所ならびに同研究所の岡本篤志氏より全面的なご協力をいただいた。記して感謝申し上げる。

5．島根大学法文学部考古学研究室が所蔵する金属製品については、公益財団法人朝日新聞文化財団の2016・2017年度文化財保護活動助成により保存処理を実施した。事業名は『出雲型石棺式石室出土金属製品の保存修復と公開』（申請者：島根大学法文学部考古学研究室）である。本書はその成果報告でもある。助成いただいた公益財団法人朝日新聞文化財団には、篤く御礼申し上げる次第である。なお、保存処理作業については、株式会社吉田生物研究所に委託した。

6．研究活動は、2013～2015年度島根大学法文学部山陰研究プロジェクト『山陰地方における既掘考古資料の再検討と歴史文化遺産の持続的活用』（研究代表者：岩本崇・課題番号1304、研究分担者：大谷晃二・古谷毅・河野正訓・岡本篤志）として実施した。また、2016～2018年度島根大学法文学部山陰研究プロジェクト『山陰地方における既掘考古資料の再検討による歴史文化遺産の活用と地域還元』（研究代表者：岩本崇・課題番号1602）、ならびに2016・2017年度島根大学萌芽研究プロジェクト『「古代出雲世界」の認識と境界の成立についての研究―考古学・地質学・歴史学のコラボレーション―』（プロジェクトリーダー：岩本崇）の研究成果でもある。

7．本書の執筆は、古天神古墳研究会のメンバーのほか、松本岩雄（島根県立八雲立つ風土記の丘）、加藤一郎（宮内庁書陵部）があたった（執筆順）。執筆分担は第４章を除いて担当部分の冒頭を目

次に記し、第４章については目次および本文の冒頭に執筆者を記名した。全体の編集は岩本崇がおこなった。なお、第４章は個別の記名論文からなるため、各執筆者の意図を尊重し、用語や表記ゆれ等の統一をあえておこなっていない。

８．本書で表示する方位の多くは、過去の調査記録類や報告において示された方位であり、必ずしも真北や座標北といった明確な基準に基づくものとは限らない。標高についてもその基準が明らかでない場合がある。なお､埋葬施設の再実測にともなって使用した座標系は､昭和 43 年に建設省によって公示された国土座標（平面直角座標第Ⅲ系）である。標高は海抜高である。

９．出土遺物には品目ごとに通し番号ないし昇順アルファベットを付すことを原則とし、番号ないしアルファベットは本文・挿図・図版で対応する。

10. 第 13 図に掲載した銅鏡の拓影は､天理大学考古学･民俗学研究室が所蔵する後藤守一資料である。拓影資料の提供・掲載にあたっては、同研究室からご高配を頂戴した。記して謝意を表する。

11. 引用文献は各省の末尾に一括した。ただし、個別の論考からなる第４章については、各節の末尾に引用文献を付した。

12. 図版に掲載した写真は、岩本崇が撮影した。ただし、図版以外の本文に掲載した写真はこの限りではない。撮影と掲載にあたっては、資料の大部分を所蔵する東京国立博物館、ならびに同館の白井克也氏より格別のご配慮を賜った。記して謝意を申し述べる。

13. 調査ならびに報告書作成の過程で、以下の方々と諸機関より多くのご教示とご協力を賜った。ここにその負うところを記し、感謝申し上げる（敬称略・五十音順)。なお、第４章の個別論考にかかわる協力者と協力機関については、それぞれの該当箇所で謝辞を述べさせていただく。

赤澤秀則　池淵俊一　今井智恵　上野祥史　上山晶子　内田律雄　会下和宏　大橋泰夫　岡本篤志　小田木治太郎　及川 穣　角田徳幸　加藤一郎　加藤和歳　亀井淳志　小林 啓　齊藤大輔　阪口英毅　澤田正明　白井克也　鈴木一有　高田健一　田中 大　徳永 隆　豊島直博　花谷 浩　原田敏照　東森 晋　曳野律夫　平郡達哉　松本岩雄　間野大丞　三宅和子　宮代栄一　森下章司　渡邊貞幸　大手前大学史学研究所　九州歴史資料館　公益財団法人朝日新聞文化財団　島根県教育庁文化財課　島根県教育庁埋蔵文化財調査センター　島根県古代文化センター　島根県立八雲立つ風土記の丘　島根考古学会　天理大学考古学・民俗学研究室　東京国立博物館　本庄考古学研究室

古天神古墳の研究

目　　次

例　　言

第１章　研究の目的と経過 …… 1
　1　研究の目的 …… 岩本　崇　1
　2　研究の経過 …… 2

第２章 古墳をめぐる環境 …… 5
　1　古墳群の位置と地形 …… 松本 岩雄　5
　2　周辺の遺跡 …… 5
　3　過去の調査 …… 11
　4　埋葬施設 …… 岩本　崇　15

第３章　出土遺物 …… 23
　1　概　　要 …… 岩本　崇　23
　2　銅　　鏡 …… 24
　3　装 身 具 …… 磯貝 龍志　26
　4　武　　器 …… 27
　（1）銀装円頭大刀 …… 大谷 晃二　27
　（2）大　　刀 …… 31
　（3）剣 …… 36
　（4）短　　刀 …… 磯貝 龍志　37
　（5）鉄　　鏃 …… 土屋 隆史　39
　5　農 工 具 …… 磯貝 龍志　42
　（1）刀　　子 …… 42
　（2）砥　　石 …… 42
　6　馬　　具 …… 岩本　崇　44
　7　土　　器 …… 岩本 真実　48
　（1）須 恵 器 …… 48
　（2）軟質土器 …… 53
　8　埴　　輪 …… 岩本　崇　54

第４章　研　　究 …… 57
　1　出雲型石棺式石室の成立 …… 岩本　崇　57
　2　旋回式獣像鏡系倭鏡の編年と生産の画期 …… 岩本　崇　73
　3　古天神古墳出土大刀の時期と系譜 …… 大谷 晃二　91

4　古天神古墳出土鉄鏃の位置づけ …… 土屋 隆史　103
5　古天神古墳出土須恵器の編年的位置づけ …… 岩本 真実　111
6　幕末から明治・大正期における実測図の変遷（素描） …… 加藤 一郎　123

第５章　総　　括 …… 131
1　出土遺物について …… 岩本　崇　131
2　出雲型石棺式石室の成立背景について …… 134
3　古天神古墳築造の背景と意義 …… 135

図　　版
抄　　録

挿 図 目 次

第１図　古天神古墳の位置 …… 1
第２図　調査研究の経過（１） …… 3
第３図　調査研究の経過（２） …… 4
第４図　周辺の遺跡 …… 7
第５図　梅原末治の報告に掲載された古天神古墳の埋葬施設実測図〔S=1/50〕 …… 11
第６図　『島根の文化財』第３集（1963 年）に掲載された墳丘測量図と石室実測図 …… 12
第７図　古天神古墳の墳丘測量図 …… 14
第８図　横穴式石室実測図〔見上図〕 …… 16
第９図　横穴式石室実測図〔平面図・立面図〕 …… 17・18
第 10 図　横穴式石室石材形状図 …… 19
第 11 図　玄室内の細部 …… 20
第 12 図　島根大学所蔵資料の収蔵状況 …… 23
第 13 図　銅　　鏡 …… 25
第 14 図　金環・銀環の計測位置 …… 26
第 15 図　装身具〔金環・銀環〕 …… 26
第 16 図　鐔の形状 …… 27
第 17 図　鞘口筒金具の厚さ（目盛１㎜） …… 27
第 18 図　鞘口筒金具の玉縁段面 …… 27
第 19 図　銀装円頭大刀（１） …… 28
第 20 図　銀装円頭大刀（２） …… 29
第 21 図　金銅装大刀関連の破片 …… 30
第 22 図　鞘口筒金具の破損部 …… 31
第 23 図　銀板の破片 …… 31
第 24 図　金銅板の破片 …… 31

第 25 図　大刀・剣 …… 33
第 26 図　銀象嵌装大刀（大刀 D） …… 34
第 27 図　大刀の形態分類と計測位置 …… 35
第 28 図　鏶と鐔 …… 36
第 29 図　刀身断面 …… 36
第 30 図　大刀の銹着状況 …… 36
第 31 図　短　　刀 …… 38
第 32 図　鉄　　鏃（1） …… 40
第 33 図　鉄　　鏃（2） …… 41
第 34 図　刀　　子 …… 43
第 35 図　砥　　石 …… 43
第 36 図　馬具〔環状鏡板付轡 A〕 …… 45
第 37 図　馬具〔環状鏡板付轡 B〕 …… 46
第 38 図　馬具〔辻金具・雲珠〕 …… 47
第 39 図　蓋坏の回転ヘラケズリと板状圧痕 …… 49
第 40 図　須恵器（1） …… 50
第 41 図　須恵器（2） …… 51
第 42 図　須恵器甕片（左：外面　右：内面） …… 52
第 43 図　軟質土器 …… 53
第 44 図　円筒埴輪 …… 54
第 45 図　不明埴輪 …… 55
第 46 図　定型化前と定型化した出雲型石棺式石室 …… 59
第 47 図　出雲型石棺式石室に先行する北部九州系横穴式石室 …… 60
第 48 図　出雲東部に関連する北部九州系横穴式石室 …… 62
第 49 図　出雲西部における横穴式石室の切石化 …… 63
第 50 図　伯耆西部における横穴式石室の切石化 …… 64
第 51 図　山陰の導入期切石造横穴式石室にみる切組積み …… 65
第 52 図　肥後南部の切石造横穴式石室 …… 66
第 53 図　出雲型石棺式石室成立の二つの背景〔概念図〕 …… 67
第 54 図　旋回式獣像鏡系の獣像表現形式 …… 76
第 55 図　旋回式獣像鏡系の縁部形式 …… 76
第 56 図　旋回式獣像鏡系の諸例（1） …… 82
第 57 図　旋回式獣像鏡系の諸例（2） …… 83
第 58 図　旋回式獣像鏡系の縁部形式と型式（1） …… 84
第 59 図　旋回式獣像鏡系の縁部形式と型式（2） …… 85
第 60 図　旋回式獣像鏡系とその成立にかかわる鏡群 …… 86
第 61 図　外来系金銀装大刀の様式の変遷 …… 92
第 62 図　倭風円頭大刀と頭椎大刀の変遷 …… 93
第 63 図　倭風円頭大刀の類例と属性の変化 …… 95
第 64 図　鎬鐔の類例 …… 96

第 65 図　象嵌ハート形文の種類と変化 …… 99
第 66 図　古天神古墳出土大刀の象嵌画象 …… 100
第 67 図　古天神古墳出土鉄鏃（代表例を一部抜粋）〔S=1/2〕 …… 104
第 68 図　長頸柳葉形鏃の型式変化〔S=1/4〕 …… 105
第 69 図　近い製作時期が想定される出雲地域出土鉄鏃との比較〔S=1/4〕 …… 105
第 70 図　短頸長三角形鏃の類例〔S=1/4〕 …… 106
第 71 図　短頸ナデ関柳葉形鏃の類例〔S=1/4〕 …… 106
第 72 図　短頸腸抉柳葉形鏃の類例〔S=1/4〕 …… 106
第 73 図　有茎方頭形透鏃の類例〔S=1/4〕 …… 107
第 74 図　受け部径とたちあがり高の変遷 …… 112
第 75 図　出雲東部における提瓶の変遷 …… 117
第 76 図　出雲東部における須恵器の変遷と古天神古墳 …… 119
第 77 図　宮内庁資料ハの付図１ …… 125
第 78 図　宮内庁資料ハの付図２ …… 125
第 79 図　宮内庁資料ハの付図３ …… 125
第 80 図　宮内庁資料ハの付図４ …… 125
第 81 図　宮内庁資料ハの付図５ …… 125
第 82 図　宮内庁資料ハの付図６ …… 125
第 83 図　宮内庁資料ハの付図７ …… 126
第 84 図　古天神古墳関係公文書の対応関係 …… 127
第 85 図　1887（明治 20）年作成の上塩冶築山古墳石室実測図 …… 128
第 86 図　柏木貨一郎による図面の写し …… 129
第 87 図　『工藝百圖』にみられる図面 …… 129
第 88 図　古天神古墳の構成要素とその年代的位置 …… 132

表　目　次

第１表　古天神古墳出土遺物一覧 …… 23
第２表　金環・銀環計測表 …… 26
第３表　古天神古墳に副葬された大刀 …… 35
第４表　刀子計測表 …… 43
第５表　旋回式獣像鏡系の分類と型式（１） …… 78・79
第６表　旋回式獣像鏡系の分類と型式（２） …… 80・81
第７表　象嵌ハート形文の分類 …… 98
第８表　古天神古墳出土蓋坏各部位の特徴 …… 112
第９表　出雲東部における提瓶型式と共伴須恵器一覧 …… 114
第 10 表　出雲東部における提瓶と須恵器各器種の共伴関係 …… 115
第 11 表　出雲東部における提瓶と須恵器各器種の変遷 …… 116

図版目次

図版１　１　横穴式石室 羨道･玄室（北西から）
　　２　横穴式石室 玄門（北西から）
図版２　１　横穴式石室 玄室（北西から）
　　２　玄室 左側壁（西から）
　　３　玄室 右側壁（北から）
図版３　１　玄室 左側壁と天井石（南西から）
　　２　玄室 右側壁と天井石（北東から）
　　３　玄室 屍床仕切石と左側壁（西から）
　　４　玄室 屍床仕切石と右側壁（東から）
図版４　１　玄室 前壁（南から）
　　２　玄室から望む玄門（東から）
　　３　玄室 前壁と左側壁（南から）
図版５　古天神古墳のおもな副葬品
図版６　銅　　鏡
図版７　１　銅鏡の鈕孔（１）
　　２　銅鏡の鈕孔（２）
　　３　獣像の細部
　　４　湯周り不良
　　５　金環・銀環
図版８　１　銀装円頭大刀・金銅装大刀
　　２　大刀・剣
図版９　１　銀装円頭大刀柄・鞘口（刃側）
　　２　銀装円頭大刀柄・鞘口（佩裏）
　　３　銀装円頭大刀柄・鞘口（背）
　　４　銀装円頭大刀柄・鞘口（佩表）
　　５　銀装円頭大刀柄
　　６　銀装円頭大刀柄の鐔
　　７　銀装円頭大刀柄の銀線巻の終点
　　８　銀装円頭大刀柄の銀線巻細部（表･裏）
図版10　１　銀装円頭大刀鞘口金具・鏃
　　２　銀装円頭大刀鞘口金具の玉縁状端部
　　３　銀装円頭大刀鞘中（佩表）
　　４　銀装円頭大刀鞘中（背）
　　５　銀装円頭大刀鞘中金具の玉縁状端部
　　６　金銅装大刀鞘木
　　７　金銅装大刀鞘木の文様（目盛 0.5㎜）
　　８　金銅装大刀鞘木に残る金銅板
図版11　１　銀象嵌装大刀〔大刀 D〕（１）
　　２　銀象嵌装大刀〔大刀 D〕（２）
　　３　銀象嵌装大刀〔大刀 D〕細部
　　４　銀象嵌装大刀〔大刀 D〕X 線ラジオグラフィ
　　５　銀象嵌装大刀〔大刀 D〕X 線 CT 画像
　　６　銀象嵌装大刀〔大刀 D〕（保存処理後）
　　７　銀象嵌の単位文様〔大刀 D〕
図版12　１　短　　刀
　　２　鉄　　鏃（１）
図版13　鉄　　鏃（２）
図版14　鉄　　鏃（３）
図版15　１　刀　　子
　　２　砥　　石
図版16　馬具〔環状鏡板付轡 A〕
図版17　１　馬具〔環状鏡板付轡 B〕
　　２　馬具〔金銅装辻金具〕
　　３　馬具〔金銅装雲珠〕
図版18　須 恵 器（１）
図版19　須 恵 器（２）
図版20　須 恵 器（３）
図版21　須 恵 器（４）
図版22　１　軟質土器（外面）
　　２　不明埴輪（外面）
　　３　円筒埴輪（外面）
中扉裏　古天神古墳 横穴式石室の三次元モデル

報告書抄録

ふりがな	ふるてんじんこふんのけんきゅう
書　　名	古天神古墳の研究
副 書 名	
巻　　次	
シリーズ名	島根大学考古学研究室調査報告
シリーズ番号	第 17 冊
編集著者	岩本崇〔編集〕・松本岩雄・大谷晃二・土屋隆史・磯貝龍志・岩本真実・加藤一郎
編集機関	島根大学法文学部考古学研究室・古天神古墳研究会
所 在 地	〒 690-8504 島根県松江市西川津町 1060
発行年月日	西暦 2018（平成 30）年 3 月 20 日

所収遺跡名	所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
古天神古墳（ふるてんじんこふん）	島根県（しまねけん）松江市（まつえし）大草町（おおくさちょう）杉谷（すぎたに）1169	32201	B046	35 度 25 分 15 秒	133 度 6 分 34 秒	2017 年 3 月 21 日 ～ 2017 年 4 月 29 日（石室記録調査）	約 10㎡	学術調査

所収遺跡名	種　別	主な時代	主な遺物	特記事項
古天神古墳	古墳	古墳時代後期	鏡、耳環、大刀、短刀、鉄鏃、刀子、砥石、馬具、須恵器、埴輪など	出雲東部地域の後期首長墓。 前方後方墳。 出雲型石棺式石室のプロトタイプと評価しうる形態・構造の埋葬施設をもつ。

古天神古墳の研究

島根大学考古学研究室調査報告第 17 冊

発行年月日　2018 年 3 月 20 日
編集・発行　島根大学法文学部考古学研究室
古天神古墳研究会
〒 690-8504
島根県松江市西川津町 1060
印　　刷　有限会社 高浜印刷
〒 690-0133
島根県松江市東長江町 902 － 57